

JP026 ウトナイ湖・勇払原野 (うとないこ・ゆうふつげんや)

北海道：苫小牧市、安平町、厚真町

位置	N 42° 39′ E 141° 45′
面積	7,200ha

環境構成【開放水面／湿性草原／樹林／農耕地】

勇払原野は、火山灰の降灰により堆積した泥炭層に形成された湿原であり、湖沼にはマコモ・ヒシなどの水生植物が繁茂し、その周辺にはヨシ・イワノガリヤスなどの草原やハンノキの低木林、さらにその周りにはコナラ・ミズナラの二次林が広がっている。

ここはかつて釧路湿原にも匹敵する面積をほこる湿原であったが、干拓や都市開発などにより、現在は美々川・ウトナイ湖周辺にのみ原生環境を残している。

開放水面（ウトナイ湖 230ha、弁天沼 74ha）



写真：中村聡

選定理由

A4i	コハクチョウ、マガン、ヒシクイ、オオジシギ
-----	-----------------------

保護指定

法的な担保がない、もしくはわずか（10パーセント未満）である

<保護指定の内容>

国指定鳥獣保護区（ウトナイ湖）

<その他>

ラムサール条約登録湿地、東アジア・オーストラリア地域フライウェイパートナーシップ参加地

保全への脅威

- ・乾燥化による植生の変化、窒素の過剰流入、土砂流入
- ・周辺の土地利用による孤立化
- ・工業基地計画や新たな土地利用の変化（弁天沼周辺）

- ・アライグマ等の外来種
- ・外来植物（特にオオアワダチソウやユウゼンギク）の分布拡大による植生の変化
- ・メガソーラー施設の整備および稼働
- ・CCS 実験施設の整備
- ・多量の降雨による河川の氾濫や洪水
- ・将来的に予測される樽前山の噴火
- ・カメラマンやバードウォッチャーのマナー
- ・苫小牧東部開発地域（苫東地域）の土地分譲や工場進出
- ・新たな道路建設

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
減っている：オオジシギ
増えている：マガン
不明：コハクチョウ、ヒシクイ
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
＜調査データの入手方法＞
日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ ネイチャーセンター
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化がある：オオジシギの繁殖環境の減少
- ・ IBA 選定基準種の生息環境：
悪い（40～70%が最適の状態）
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：
以前はあったが、古く、更新されていない（2006年 ウトナイ湖・勇払原野保全構
想報告書）

保全活動

- ・ 環境管理：実施者（日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ）
内容：人工池の管理
- ・ 外来種のコントロール：実施者（環境省、苫小牧市、日本野鳥の会 ウトナイ湖サ
ンクチュアリ）
内容：アライグマの駆除（環境省、苫小牧市）
オオアワダチソウの抜き取り（日本野鳥の会）
- ・ 環境教育活動：実施者（環境省、苫小牧市、日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュ
アリ）
内容：来訪者への自然解説（苫小牧市、日本野鳥の会）

- 自然観察会の開催（環境省、苫小牧市、日本野鳥の会）
- 小中学校の環境学習活動への対応（苫小牧市、日本野鳥の会）
- 工業高等専門学校の特設プログラム実施（日本野鳥の会）
- ・保全のための人材育成活動：実施者（苫小牧市、日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ）
 - 内容：レンジャー養成講座の開催（日本野鳥の会）
 - 自然案内ボランティアの育成（苫小牧市、日本野鳥の会）
- ・法律制定、政策、規制：実施者（環境省、北海道、日本野鳥の会）
 - 内容：国指定鳥獣保護区（特別保護地区）指定（環境省）
 - 特定猟具使用禁止区域指定（北海道）
 - ウトナイ湖鳥獣保護区管理員（日本野鳥の会）
- ・モニタリング調査：実施者（苫小牧市、日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ）
 - 内容：全域水鳥カウント調査（苫小牧市、日本野鳥の会）
 - ガン類個体数変動調査（苫小牧市、日本野鳥の会）
 - ハクチョウ類生息調査（苫小牧市、日本野鳥の会）
 - ウトナイ湖周辺地域鳥類調査（苫小牧市、日本野鳥の会）
- ・その他 実施者（日本野鳥の会 ウトナイ湖サンクチュアリ）
 - 千歳川放水路計画への反対運動（計画中止決定）
 - 勇払原野保全プロジェクトによる現地調査と保全構想の提案
 - 美々川自然再生技術検討懇談会への参画

IBA サイトの保全に関係する地域のグループ

- ・日本野鳥の会ウトナイ湖サンクチュアリ
- ・ウトナイ湖野生鳥獣保護センター
- ・ネイチャー研究会 in むかわ

見られる鳥

ウトナイ湖ではこれまでに約 270 種の野鳥が確認されており、春には数万羽におよぶ水鳥が渡りの中継地として利用している。

留鳥	トビ、オジロワシ、チュウヒ、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、エナガ、ハシブトガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、カワラヒワ、シメ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス
夏鳥	カイツブリ、アオサギ、コチドリ、ヤマシギ、イソシギ、オオジシギ、キジバト、アリスイ、ヒバリ、ハクセキレイ、ビンズイ、モズ、ノビタキ、クロツグミ、ア

	カハラ、ヤブサメ、ウグイス、センダイムシクイ、メジロ、アオジ、オオジュリン、ベニマシコ、ニュウナイスズメ
冬鳥	オオハクチョウ、マガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ホオジロガモ、ミコアイサ、カワアイサ、オオワシ、ハイイロチュウヒ、セグロカモメ、シロカモメ、ツグミ、アトリ、マヒワ、ウソ
旅鳥	カンムリカイツブリ、ヒシクイ、マガン、コハクチョウ、ユリカモメ
迷鳥	ヤツガシラ

関連団体・自治体・施設等

- ・ウトナイ湖サンクチュアリ
- ・ウトナイ湖鳥獣保護センター
- ・日本野鳥の会苫小牧支部



Sources: Esri, HERE, DeLorme, TomTom, Intermap, increment P Corp., GEBCO, USGS, FAO, NPS, NRCAN, GeBCO, IGN, Kadaster NL, Ordnance Survey, Esri Japan, METI, Esri China (Hong Kong), swisstopo, MapmyIndia, © OpenStreetMap contributors, and the GIS User Community